

図書館だより

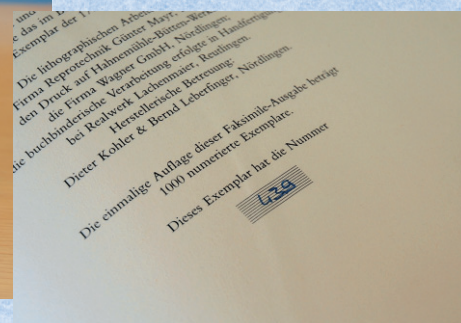
第32号

鹿児島国際大学附属図書館報

The International University of Kagoshima Library

－ 目 次 － contents

- Book of Life ～私と図書館～ 2～3p
「英語が『分る』とはどういうことか」 榎 満信
「知の世界・図書館と現実の世界との往復の大切さ」 西原 誠司
- マクマレイ・ゼミ推薦本 4～5p
- あなたのお悩み解決し隊!! 6～7p
(第8回 : レポート・論文執筆のための大学図書館活用術)
- 図書館サポーター活動報告 7p
- Library Report 8p



これらの写真については、最終8頁をご覧ください。

わたしと図書館 ~Book of Life~



英語が「分る」とはどういうことか

経済学部経済学科 榎 満信

かつて放送大学のテキスト・ブックとして世に出た書物の中には、中身の良さから、放送期間（最低4年間）の済んだ後にあらためて別の出版社から出されるものがある。そうしたものの中で私がとりわけ気に入っているのが、渡辺二郎『自己を見つめる』（左右社、2009年）、伊藤笏康^{しゅつこう}『人間に何が分かるか：知識の哲学』（勁草書房、2001年）の2冊である。

題から察しの付くように、これらは二つとも哲学者の著した書物である。『自己を見つめる』のほうは、人が生きてゆく上で抱えざるをえない悩みに向き合うときこそ哲学の出番であるとする書物であり、『人間に何が分かるか』のほうは、「～とはそもそも何だったのか」という哲学本来の関心の対象を、「知る」ということに定めた書物である。どちらも、これまでの哲学の成果を踏まえていながらも良い意味で哲学書っぽくない筆致となっている。そのおかげで、読者は特段の哲学的心得がなくとも、人生の根本問題や人の知的活動のスペクトルに迫ることができる。

さて、つい先だって、上記伊藤氏の新しい書物が出た。『言葉と発想』（放送大学教育振興会）である。一言で言って、この書物の中身はかなり変っている。英語を、ただ文法に則って学ぶのもよしとせず、かといって母語話者にただ就いて学ぶこともよしとせず、いずれとも違った学び方を示すのである。

それにしてもどうして伊藤氏が英語なのか。空前の英語ブームの昨今、伊藤氏はいつの間にやら哲学者から英語学者に衣替したのであろうか。『言葉と発想』の目次を見たかぎりではそう思われても仕方がないが、それは事実でない。伊藤氏は紛れもなく、『人間に何が分かるか』を著したころの自身の延長線上にいる。彼はかつて『人間に何が分かるか』の中で、人がものを知るというとき、そこには「説明知」と「遂行知」という2種類のものがあると述べていた。実は今般出た『言葉と発想』では、英語話者がいつの間にか身に

つけてきた英語の知識が「遂行知」に、そして文法書に理路整然とつづられている英文法が「説明知」に、それぞれ当たるのである。母語話者は英語を難なく使えるけれども、小さいころから自然とものにしてきた母語の発想を外国人に言葉で説明することはふつつかしい。他方で文法は英語の規則を専門家が纏めたものでこれ自体は正しいものだが、一から学ぼうとする外国人によく分るかどうかはまた別問題である。そこで伊藤氏は、それら双方に伴う欠点を乗り越えるべく、英語話者の「発想」を説明するという手に出るのである。同書では英語の冠詞、法、アスペクト、話法の助動詞などについて、母語話者がどういう発想で使っているかが諄々と説かれてゆき、読む者は「なるほど、それだけのことなのか」と得心させられる。

私は大学時代の第二外国語から勘定して、これまでに七つの言葉を学んできた。その経験からいうと、能率的に外国語を学ぶために文法は欠かせない枠組であるように思われる。しかし今回伊藤氏が出してくれたような・母語話者の発想を説く書物があれば、どの言葉にせよ、学ぶのがもっと楽になるのはうたがいを入れない。

『言葉と発想』は、伊藤氏の哲学から思わぬ方向に（？）芽が伸びて結実したおもしろい書物である。最初に掲げた2冊と併せて、学生の皆さんに一読をおすすめしたい。



知の世界・図書館と現実の世界との往復の大切さ

短期大学部情報文化学科 西原 誠司

3.11 東日本大震災とそれにつづく福島原発事故は、「知」と「現実」の関係についてのものの見方に大きな変更を迫っている。というのは、これまで「知の権威」によって安全だといわれていたものが、原発事故という「現実」によって完全に崩壊したからである。いわゆる「安全神話の崩壊」である。このような知の危機に直面した時、ひとはどのように考え、行動すべきであろうか。

わたしと図書館（知の世界）との出会いをふりかえれば、最初に衝撃をうけたのがダーウィンの『ピーグル号航海記』であった。たしか小学校4年生の時であったと思うが、新しい世界観に出会い、感動し、何ともいえない気持ちになったことを覚えている。後から知ったことだが、ダーウィンは、最初は、神の存在を信じ、神による生命の創造を証明しようと航海に出たそうだが、ところが、航海のなかでそれを否定する事実に出会い、種は不変ではなく、進化するという結論に至り着くのである。だが、それに至るまでには、筆舌に尽くしがたい苦闘・苦悩があったに違いない。「進化論」を着想し、公表するまで、30年近くかかったことがそのことを如実に示している。それは、たんに科学的真理を発見するための苦闘だけではなく、その時代の支配的イデオロギーとも闘わなければならなかったからである。

実は、私たちは、気づかないうちにその時代のイデオロギーの中で呼吸し、イデオロギーの眼鏡をつけて生きている。赤い色の眼鏡をつけていれば、赤い字で書かれた本のタイトルが読めず、黒い眼鏡をつけていれば、黒字のタイトルが見えないように、特定のものの見方に縛られてしまうと、真実の姿が見えなくなるのである。アメリカのキリスト教原理主義者は、いまだにダーウィンの進化論を否定し、「進化論」を教えない学校もある。

それではこのようなイデオロギーの眼鏡の拘束から抜け出すには、どうすればいいだろうか。それは、ひとつには、「あらゆるものを疑え」というデカルトの

ように自分もまたある特定の色眼鏡をつけているのではないかと疑うことである。次に、自分がつけている色眼鏡を一度はずしてみ、他の色の眼鏡をつけてみることである。

では、実際にはどうすればいいのいか。そこに図書館の果たす役割がある。図書館という「知の宝庫」には、実に様々な考え方の書物が収蔵されているからである。こういう眼で、図書館を見直してみると、原発に関しても「知の権威」に反対した「異端」の研究者たちの書物もまた収蔵されていたことがわかる。これらの本が、今起こっている事態のすべてを説明しているわけではないが、基本的な点で現在の事態を予見していたことは確かである。

だが、いくら本を読んでも、それが現実を動かす行動へと繋がらなければ、単なる頭の中だけの知識にすぎない。図書館で得られた知が行動に転化するためには、みずみずしい人間的感性、他人の苦しみを自分の痛みとして感じるヒューマニズムが必要であり、これこそ行動の出発点である。その意味で、図書館という「知の宝庫」は、ヒューマニズムにもとづく現実世界の変革との往復作業の中で、始めてその輝きを増すのである。

段階別読み物 ～アックアレイ・ゼミの推薦本～

私たちマックゼミでは、普段「カナダ・プロジェクト」としてカナダの研究に積極的に取り組んでいます。今回はその取り組みの一環として、英語に親しむために英書を一人一冊ずつ選び、内容をまとめましたので、その一部をご紹介します。本を選ぶ際に大学の図書館を利用したのですが、初心者にお薦めの本から英語の文法書、日本語訳が広く知られている本など、様々な種類の英書があります。みなさん、この機会にぜひ図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか？

また、私たちはESSクラブでも段階別読み物を用いて活動を行っています。週に2回図書館3階にて活動を行っていますので、興味のある方はぜひ見学に来てみてください!!

『Just like a movie』

Sue Leather 著 Cambridge University Press 2000年



主人公のブラッドとガールフレンドのジーナは映画が大好きで、週末になると2人で映画館を訪れていた。彼らはとても幸せな日々を送っていて、結婚も考えていた。だが、2人にはお金がなかった。ブラッドは、そのことをとても気にしていた。ある日観た映画からブラッドはいい考えを思いついた。お金のためとはいえ、ブラッドは人格が変わったように恐ろしい計画を実行していく…。果たしてその計画は成功したのだろうか。「Just Like A movie」のような人生を送れることができたのだろうか。この表紙からは想像できない結末がブラッドを待っていた。

この作品は大学院生のシリアが研究をしており、さらにESSクラブでも扱って勉強しています。優しい英語が使われており、理解しやすく、とても面白い作品ですので、ぜひ読んでみて下さい。

国際文化学部言語コミュニケーション学科2年：満重 拓也

『Dirty money』

Sue Leather 著 Cambridge University Press 2006年



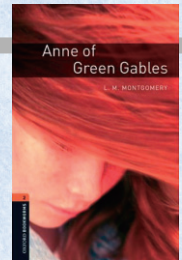
JoeとSandyはカナダでの新しい生活に満足していた。なんといっても、窓から見える美しい景色、きれいな水、きれいな空気は2人にとってお気に入りのものだった。ある日、家の近くから騒音が聞こえてきた。Joeが音の正体を見に行くと、そこには大きなショベルカーやトラックが休む間もなく動いていた。彼はとても驚いた。このきれいな自然の中で鉱山の採掘が行われていたのだ。Joeは新聞記者という職業を活かし、この問題を取り上げて工事を止めさせようと考えたが、上司の命令で記事を書かせてもらえなかった。Joeは何としてでも原因を突き止めるために、1人で真夜中に工事現場に行き調べ始めた。調べていくうちに見えてきた工事の本当の目的とは？そして、予想もしてなかった犯人たちの正体とは…。

国際文化学部言語コミュニケーション学科2年：瀬戸口 麗

『Anne of Green Gables』

L.M. Montgomery 著 Oxford University Press 2007年

孤児アンの物語である。アンを引き取ったのは、農業をしながら2人で暮らしているマシューとマリラという老兄妹。2人は農園を手伝わせるために、孤児院から男の子を引き取るようになっていたが、手違いでアンを引き取るようになってしまった。最初は戸惑っていた2人だが、共に暮らしていくうちに本当の子供のようになっていく。



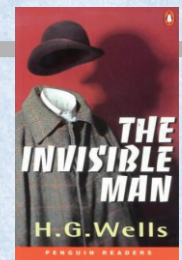
この物語は、アンの成長とアンの影響を受けていつの間にか周囲の人々に訪れていた変化が見どころだと思います。

国際文化学部言語コミュニケーション学科2年：福吉 美月

『The invisible man』

H.G. Wells 著 Pearson Education 1999年

顔を包帯で覆い、目を黒いサングラスで隠した奇妙な男が、サセックスのアイピングという村の宿屋に泊まりに来るところから物語は始まる。宿屋の主人と妻は、部屋をめちゃくちゃにして他の宿泊客を追い出した男に出て行くよう頼む。すると、男が狂ったように笑いながら、包帯を剥ぎ取って、主人を階段から落としてしまった。それによって、彼が透明人間だという秘密は明らかになる。透明人間の正体は、モノケインと呼ばれる薬の実験を行っているうちに、透明化の秘密に気づいた科学者ジャック・グリフィン博士であった。モノケインはグリフィンの肉体全体に行きわたり、グリフィンは人間の目には完全に見えない肉体となった上、狂気のとりこになってしまう。



私はこれを読んで、「透明人間」というものは人類の夢であるとともに、博士のように悪用してしまうと危険にもなりうると思いました。これは、現代の科学技術等にも言えると思います。読むのにかなり苦労しましたが、面白い作品ですので、お勧めします。

国際文化学部言語コミュニケーション学科2年：寺田 智大

『The pelican brief』

John Grisham 著 Penguin 2000年

アメリカ合衆国最高裁判所判事2人が立て続けに暗殺された。この事件を調査したニューオリンズの法科大学院女学生のレポートが、ある教授を通じて政府に届いてしまうのである。このレポートは、彼らを暗殺した犯人を割り出した仮説であった。このことが原因で命を狙われることとなった主人公ダービーはワシントン紙の記者と協力し、その事件の裏を取る調査をするのだが……。



登場人物が多く、彼らの利害関係が複雑でややこしい上に、難しい単語も多いのですが、とてもスリルがあって面白い作品です。

国際文化学部言語コミュニケーション学科2年：楊 平

あなたの悩み解決し隊!!

第8回：レポート・論文執筆のための大学図書館活用術

レポートや論文を執筆する際、分野の違いはあっても、その分野の事柄や事実について正確に知っておくことは大前提となる。自分で色々調べて、事柄や事実を整理し、自分の考えに沿ってそれらを体系的に叙述して、初めて論文となる。いきなりその作業をするのは、容易なことではないが、その準備段階として様々な事柄や事実を調べ、整理することなら、それほど難しいことではない。その際、大学図書館にある資料やデータベースは役に立つ。では、具体的にどのように役に立つのか。以下、本館に即して述べていくことにしよう。

1) 新聞新聞記事データベース

本館2階ブラウジング・コーナーにある新聞や図書館ホームページからアクセスできる新聞記事データベース（朝日、読売、南日本の各紙。ただし、学内からのアクセスのみ利用可。）は、時事的な事柄や事実を初期段階で把握するのに役立つ。例えば、福祉社会学部の学生が最近の介護福祉政策に関する政府や県や市などの自治体の動向を調べる際、または、経済学部が学生が近況の円高などの為替相場の動向や来年度の県の予算状況やそれに対する論評などを調べる際など、利用するとい。ただし、この方法は、とりあえず知りたいという初期段階での方法であるので、注意を要する。



新聞記事のデータベースへのアクセスは、図書館のホームページの下方からできます。

2) OPAC (図書、雑誌所蔵検索)、CiNii (論文検索)

新聞では、事柄や事実が即時的に伝えられるが、深く考えられた上で専門家によって伝えられているわけではない。もう少し詳細に、または、深く知りたければ、書籍や論文に当たらないといけない。書籍については、自分が知りたい分野の用語を直接 OPAC でキーワードに入れて検索をしてもいい。検索結果のヒット件数が多過ぎれば、キーワードを複数にする、または、著者名で絞るなどの工夫をすればいい。また、何かの入門書を読む際には、新書を薦める。大半の分野で良書と呼ばれる新書がある。CiNii では、論文のタイトルをキーワードで検索ができ、また、著者名からも論文の検索ができる。調べたいことが絞られている場合、それにピッタリな論文が見つかる場合が多い。その論文が掲載されている雑誌名を OPAC で検索すれば、本館に所蔵しているかどうか分かる。所蔵していなければ、他大学の図書館からコピーを取り寄せることもできる。

OPAC 検索の画面が新しくなりました。



3)参考図書(事典、百科事典、統計年鑑、白書など)

事柄や事実を事典、百科事典などで調べるだけでも、想像以上に知識が得られることが多い。新聞記事だけでは浅すぎると思えても、さりとて、調べたいことに関する書籍や論文を読む時間がないときに、中間的な方法となる。事典や百科事典は、学問的に検証された上で書かれているので、そこでの記述は信用することでき、関連事項や歴史的背景なども簡潔に書かれてあることも多い。事典類は総じて分厚く、最初は引くだけでも大変だが、慣れれば、それらが知識の宝庫ともなりうる。インターネットのWikipediaを利用する人も多いだろうが、そこには誤った記述も多いので、鵜呑みにせず、事典類で再度確認することが非常に重要である。統計については、公的機関が発表するものであれば、大半はウェブ・サイトで公開されている。公的機関によるものなら、サイト名、アドレス、アクセス日時を明記しておけば、レポートや論文で引用することも可能である。

ここまで、学生がレポートや論文を執筆する際の準備段階で、大学図書館にある資料などが具体的にどのように役立つかを想定し、本館に即して書いてみた。調べる対象によって、1)～3)を適宜使い分け、大学図書館を十分に活用してもらいたい。疑問があるときは、遠慮なく、大学図書館内のレファレンス・コーナーで職員に声をかけてもらいたい。

図書館サポーター活動報告

4月…〈新入生歓迎〉

いろいろな学科の新入生が、たくさん入部してくれました(*^_^*)
部員数がいっきに増え、にぎやかなスタートとなりました！

6月…〈第3回 図書館サポーター選書〉

ユウカリ会館内にある「紀伊國屋書店」にて、第3回目となる選書ツアーを行い、購入図書を選びました(^.^)♪新入生も参加して様々なジャンルの本を集めました！ぜひ図書館に見に来てくださいね☆

7月…〈オープンキャンパス：『図書館まるごとクイズラリー』〉

今年のオープンキャンパスでは『図書館まるごとクイズラリー』というイベントを企画しました。各閲覧コーナーに隠された、いくつかのキーワードを集めて、ひとつの文章を完成させるというクイズです。数多くの高校生の皆さんに挑戦してもらいました！！サポーターも一緒に、図書館の案内や、解答の手伝いをし、楽しいオープンキャンパスになりました(^.^) ☆

普段、図書館サポーターはカウンターで図書の貸出や返却、挿架、装備などの図書館業務を行っています。

図書館で何かわからないことがあったら、赤いジャンパーを着ているサポーターに声をかけてくださいね！

また、図書館サポーターは、ブログも作成しています！興味のある人はアクセスしてみてくださいね(^.^) /
(<http://iuk-plus.net/tosyokan/>)

Library Report



文部科学大臣委嘱司書講習

平成23年度文部科学大臣委嘱司書講習が本学で開催されました。7月26日から9月23日までの約2ヶ月間、集中しての講習会でしたが、一人の脱落者もなく、47名が司書資格に必要な単位を取得されました。受講生の皆さんの今後の活躍に期待します。



新スタッフ紹介

今年度、相良長宣次長、大西由以子係長、木場タエ子さんの3名のスタッフが加わりました。皆さんが利用しやすい図書館を目指します。どうぞよろしくお願いいたします。



表紙の写真について

表紙の写真は、経済学の古典とされるアダム・スミスの『国富論』（1776年）の初版のリプリント版です。1986年にドイツの出版社から1,000部のみ刷られ、各本に番号が当てられています。本館所蔵分の番号は、439（写真右）です。本書の紹介については、1995年の本誌「図書館だより（第9号）」にて当時の平田清明学長（故人）にさせていただきました。ご覧になりたい方は、図書館まで。



平成23年度出張一覧表

出張名(開催地)	日程
私立大学図書館協会西地区部会2011年度第1回九州地区協議会(佐賀)	4/21
平成23年度第62回九州地区大学図書館協議会総会(佐賀)	4/22
平成23年度第1回鹿児島県大学図書館協議会研修委員会・広報委員会(鹿児島)	5/17
第32回鹿児島県大学図書館協議会総会(鹿児島)	5/27
平成23年度第1回大学地域コンソーシアム鹿児島 地域共同リポジトリ事業部会(鹿児島)	6/30
地域共同リポジトリ事業部会実務担当者研修会(鹿児島)	8/22、10/12、11/29
日本私立大学協会九州支部第1回初任者研修会(福岡)	8/25～8/26
私立大学図書館協会西地区部会2011年度九州地区研究会(福岡)	8/26～8/27
私立大学図書館協会2011年度西地区部会第2回役員会、および研究会(兵庫)	9/14～9/15
平成23年度大学職員情報化研究講習会(応用コース)(静岡)	11/9～11/11

編集後記



今年も残りわずかとなりました。思い起こせば、昨年の年末から元旦にかけ鹿児島でも雪が降り、積雪の中新しい年が明け、4月に、図書館員の異動や係替えがあり、慌ただしく新年度が始まりました。また、新入生への図書館ガイダンスでは、一部新しい試みを実施するなど、日々利用者の皆さんによりよく利用していただけるよう、奮闘しています。今回の「図書館だより」も、少しでも皆さんの役に立ち活用していただけると幸いです。

今回原稿を書いていただいた教員・学生の皆さま、本当にありがとうございました。(M.H)

図書館だより－鹿児島国際大学附属図書館報－ 第32号 2011年12月20日発行

鹿児島国際大学附属図書館 〒891-0197 鹿児島市坂之上8-34-1

TEL:099-263-0732 FAX:099-261-1198 E-mail:tosyokan@ofc.iuk.ac.jp

(URL) <http://www.iuk.ac.jp/tosyokan/index.php> (携帯URL) <http://lbweb.iuk.ac.jp/nbp/>